

今年度は産業や生活環境、まちへの誇りなど、7つの視点から「まちの満足度」を調査しており、満足度が高か

福祉医療、住環境、インフラ、教育などの市民福祉の向上を図ってきた結果、市民の満足度はどのように変化したか。

福祉や雇用、地域コミュニティなどを含むまちづくりの総合的な指標として、市民アンケートに「住みごこちの満足度」についての設問を設けていますが、平成27年度の満足度が54・7%で、今年度は53・8%となり、ほぼ横ばいで推移している。



(会派)  
鹿真会・公明  
(田村富男議員)

児玉市政4期16年の総括について

問 福祉医療、住環境、インフラ、教育などの市民福祉の向上を図ってきた結果、市民の満足度はどのように変化したか。

たのは「安全で安心して暮らせるまちだと思う」の77・6%、「自分に必要な行政サービスが受けられていると思う」の59・8%、「自身とともに健康に暮らせていると思う」の58・7%で、これまでの充実した子育て支援や高齢者福祉の取り組みの成果であると捉えている。

質問した項目  
■児玉市政4期16年の総括について  
■第7次総合計画について

答 本市の人口規模で損害賠償責任を負う事例が増えているが、市が保険に加入する考えはない。  
認知症高齢者等が賠償責任を負う事例が増えて入るべき。予防に力を入れて認知症対策に取り組んでいく。介護組合に加入していく。



録画配信はこちらから



(会派)  
誠心会  
(倉岡 誠議員)

質問した項目  
■第7次総合計画の初年度として新規、あるいは拡充して取り組む特徴的事務事業の内容について  
■自治会活動の支援強化について  
■行政手続きのデジタル化や押印事務の見直しについて  
■コロナ禍における地域経済の現状と追加経済対策について  
■新型コロナウイルスワクチンの接種体制等について

答 コロナ禍による冬季国体等の中止を受け、経済対策が必要だと思うがどう考えるか。  
大会中止に伴う支援に加え宿泊業・飲食業に対する支援など必要な経済対策を講じていく。



録画配信はこちらから

今年度は、世界級の文化遺産をはじめとした観光資源を一體的にP.R.する着地

な、まちに愛着を持つていての設問を設けていますが、平成27年度の満足度が54・7%で、今年度は53・8%となり、ほぼ横ばいで推移している。

なお、「鹿角市に愛着を持つていての設問を設けていますが、平成27年度の満足度が54・7%で、今年度は53・8%となり、ほぼ横ばいで推移している。

第7次総合計画の初年度として新規、あるいは拡充して取り組む特徴的事務事業の内容について  
「目玉事業」は何か。  
「産業力の強化」では、コロナ禍における新たな形の企業誘致や人材誘致として、リモートワーク環境の整備等を行う。

また、農業分野では、新たに果樹経営の承継を支援するとともに、高収益作物の増反を支援していく。

さらに、世界級の文化遺産をはじめとした観光資源を一體的にP.R.する着地

の造成や国内外からの誘客促進と受入れ態勢づくりを進めていく。  
では、出会いの機会の提供を強化するとともに新婚世帯の経済的負担の軽減と結婚生活基礎盤の速やかな定着を図っていく。

「移住定住の促進」では、若者の移住を促進し産業の活性化と地域の活力の向上を図るため、子育てママや若年者をターゲットとした事業などを実施していく。

この都市経営の視点で攻める3つの経営戦略に基づき、人口構造の若返りと持続可能な地域社会の形成を目指していく。

今年度は、世界級の文化遺産をはじめとした観光資源を一體的にP.R.する着地